

## 第4回 施設整備基本構想検討委員会 議事要旨

開催日：令和7年11月5日（水）14:00～15:15

場所：蕨戸田衛生センター組合 2階 大会議室

出席者：

委員：（学識経験者） 長森委員、八鍬委員

（市民代表） 植田委員、遠藤委員、市村委員、細井委員

（蕨戸田衛生センター組合連絡協議会） 郷戸委員、永井委員

（蕨市、戸田市及び組合職員） 小柴委員、香林委員、根津委員

事務局：（蕨戸田衛生センター組合）

山本次長、甲斐総務課長、上嶋施設課長、菊池施設課長補佐、

青木係長、岡崎主任技術主査、河野主任技術主査

関係者：（株式会社エイト日本技術開発） 王、渡邊、勝見

欠席者：高橋委員

配布資料：

資料 1：施設整備基本構想検討委員会におけるこれまでの検討結果

資料 2：施設整備基本構想（案）

---

### 1. 開会

### 2. 議題

#### （1）施設整備基本構想について（事業者アンケート調査結果、事業方式の整理含む）

・事務局より、資料1「施設整備基本構想検討委員会におけるこれまでの検討結果」及び資料2「施設整備基本構想（案）」の説明。

・リサイクルプラザ（製品プラスチックライン）の計画目標年次は令和16年度であるが、施設稼働目標年次は令和12年度となる。（事務局）

→ [後日記] 計画目標年次とは、施設規模を設定する年次のことである。報告書に説明を追記する。リサイクルプラザ（製品プラスチックライン）については、令和12年度に施設稼働後、分別協力率の上昇により令和16年度に排出量（処理量）が最大となる推計としていることから、令和16年度を計画目標年次として施設規模を算出している。（事務局）

・リサイクルプラザの施設規模の算定について、容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括回収するか個別回収するかによって分別協力率等も変動すると思うが、どのような想定か。（委員）

→ 循環型社会形成推進交付金の要件として、全てのプラスチックの資源化が求められている。

これまでプラスチックを全く資源化していなかった自治体では、新たな分別区分として

容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括で回収し、一つの設備で処理を行っている場合が多いと考えている。

一方蕨市及び戸田市では、現在は容器包装プラスチックのみを分別回収しているため、製品プラスチックも追加で分別回収することを考えている。現在のリサイクルプラザで容器包装プラスチックとともに製品プラスチックを資源化することも検討したが、現設備では製品プラスチックの処理が難しいため、製品プラスチックのみの処理ラインを別に設けることを想定しており、ハード面の制約からも製品プラスチックは個別回収を想定している（p. 28 参照）。（事務局）

→ 製品プラスチックは、プラスチックのみでできているもののみか、金属等の素材もついている複合素材のものも対象とするかで収集量も変わるとと思うが、どのような想定か。  
(委員)

→ 複合素材とした場合の二次電池等の混入による火災発生リスクの低減の観点も含め、両市と調整しながら、今後検討していく。（事務局）

・福島県相馬市が焼却ごみの減量や最終処分場の延命化を目的とし、企業と連携して、紙おむつを固体燃料にリサイクルしているとテレビで見た。紙おむつは乳幼児用以外に大人用も多くあり、水分が多いため、焼却処理が大変だと聞いた。今回の施設整備でも紙おむつを焼却炉とは別で処理することは検討しないのか。（委員）

→ 紙おむつの資源化については事務局にて検討をしており、紙おむつの資源化に積極的に取り組んでいる自治体は地元に処理可能な業者がいる場合が多い。また、事業者側も紙おむつの資源化技術を開発中であり、現在の事例は実証実験段階が多いと認識している（p. 27 参照）。事業者アンケートにおいても、紙おむつの資源化設備を整備しない場合であっても、個別に整備した場合は敷地面積的に難しいとの回答があったため、敷地制約と今後の技術動向を注視しながら、基本計画策定までに継続して検討したいと考えている。（事務局）

→ 下水道施設においても紙おむつを受け入れる技術を開発中であるため、様々な技術動向を確認していただきたい。（委員長）

・植物の成長が早いため、剪定枝は非常に多く排出されると思うが、今後業者と協力して剪定枝のチップ化等の資源化は検討されるのか。（委員）

→ 現在、剪定枝は焼却処理しているが、焼却量の削減が国の方針であることから、剪定枝の資源化についても事務局にて検討している。剪定枝の資源化にはチップ化と堆肥化があるが、課題としては利用先の確保がある。チップ化した場合、そのチップをどのように活用するのかが難しい。また、堆肥化にあたっては剪定枝や堆肥を長期間保管する場所が必要になり、敷地の制約もある。また、堆肥化処理では発酵させるため、臭気の問題もある。隣接自治体では堆肥化の他、民間事業者にバイオマス燃料（燃料の燃焼にはCO<sub>2</sub>が発生するが、剪定枝などのバイオマスはその成長過程でCO<sub>2</sub>を吸収していることから、地球上のCO<sub>2</sub>量を増加させない「カーボンニュートラル」とされる）として活用もらっているが、蕨市及び戸田市内には処理・利用可能な業者がいないため、自区内では処理が難しい。また、他自治体の民間事業者に委託する場合は他自治体との協議や、受入が可能かどうかの検討が必要となる。現在、市外の堆肥化業者に堆肥化が可能か確

認してもらっており、その結果も踏まえて、基本計画までに継続して検討したいと考えている。(事務局)

→ある自治体で膨大な剪定枝を堆肥化することを検討したが、使い道がなく、焼却することになった事例もある。堆肥を積極的に使用する施策があると使用できる可能性があるが、市民への自主的な利用に留まると使用しきれない可能性があるため、それも含めて基本計画までに検討いただきたい。(委員長)

・概算事業費について、汚泥再生処理センターの最大事業費と最小事業費で大きく差があるが、どのような理由によるものか。(委員)

→今回いただいたいる概算事業費は詳細な仕様は提示していない中で、事業者の他事例等を基に算出してもらった概算であるため、リスクの考え方等を含め事業者によって差が出たものと考えられる。(事務局)

・リサイクルプラザについては、現施設の延命化と製品ライン新設で、合わせて約21億円ということでよいか。(委員)

→その通りである。(事務局)

・交付金の活用を考えるということであるが、交付金や起債を利用したうえで、一般財源はどうになるのか。(委員)

→交付金の活用には条件があり、条件によって交付率が1/2や1/3等変わる。また、交付率1/2とするためにはより高価な設備を整備する必要があるため、一般財源がどれくらいになるかは、全体の経済性を考慮しながら今後整理していく。(事務局)

・戸田市と蕨市の負担割合は人口割となるのか。(委員)

→組合の規約により、負担割合は蕨市が人口割+6.5%、施設が立地する戸田市が人口割ー6.5%となっている。(事務局)

・今回提示されている概算事業費は、現段階の見積額なのか。それとも物価上昇も考慮した金額なのか。(委員)

→今回は詳細な仕様までは提示せず、事業者の他事例等を基に算出してもらった概算と考えている。今後、基本計画でより詳細な仕様を決定した上で再度、今回の見積金額から精査された見積を改めて徴収する。近年他事例では建設単価が非常に高騰しており、費用の増減は想定できないところがある。今後の改めて依頼する見積がより実態に近い値となると考える。(事務局)

・焼却処理施設、粗大ごみ処理施設、汚泥再生処理センターとそれぞれの費用が提示されているが、発注についてもそれぞれ別で発注し、それぞれの事業者と契約することになるのか。(委員)

→複数施設をまとめて一括発注にするか否か等は、基本計画段階で検討する予定である。(事務局)

・各種検討段階で、詳細を検討するものと思うが、敷地北側のさいたま市側は民有地が近接しているため、安全上、環境空間を確保してほしい。また、リサイクルフラワーセンターの②花苗生産機能は再検討となっているが、地域に隣接する施設として環境維持に貢献できる機能としてほしいと考える。(委員)

→ いただいた意見を踏まえて検討する。町会との連絡協議会の際に、地域貢献機能等について協議する場を設けたいと考えている。現在のフローワーセンターは非常に大きな面積を使用しているため、現在の規模では難しいと考えるが、事業者とも協議しながら、貢献機能を検討していきたい。パブリックコメントの際には、蕨市、戸田市に加え、さいたま市の隣接する地域の住民等も対象とする予定であり、ご意見をいただきたいと考えている。（事務局）

- ・本構想にて確定した内容が 2 つしかないが、ごみの分別区分と計画収集人口は、本構想段階である程度確定したことにならないのか。（委員）  
→ ごみの分別区分は、施設の整備内容にも関係するプラスチックの分別方法や収集方法等が未定であるため、今後の検討としている。計画収集人口は、一廃計画で両市の推計を基に将来人口の推計を行っているが、今後両市で新たな推計を行った場合に、再調整を行う可能性があるため、今後の検討としている。本構想での検討がもう少し見えるよう表現を工夫する。（事務局）
- ・現施設では電気系統が 1 つだったため、火災によって電気系統が焼損し、全ての施設の稼働が困難となったと理解している。東京電力からの電気の引き込みは 1 本だとしても、電気系統を 2 つに分けて、どちらかが破損してももう片方で稼働できる、という施設にはできないのか。（委員）  
→ 現在の施設では、東京電力からは 2 系統引き込んでいるが、1 つの受変電設備で統合している。この受変電設備を 2 つに分けるとなると大掛かりな工事となり、現施設での対応は難しいと考える。新しい施設では、電気設備も含めた火災対策を検討していきたい。（事務局）

## （2）その他

- ・第 5 回検討委員会は 1 月 6 日（火）の 14 時からを予定している。（事務局）
- ・事業費については作成中とのことだが、本日の委員会を以て「基本構想（案）」を「基本構想」とするものか。（委員長）  
→ 1 月に予定している次回委員会でパブリックコメントにかける内容をご確認いただき、「基本構想（案）」としてパブリックコメントを実施する。その後、パブリックコメントの結果を反映して「基本構想」とし、管理者に承認いただき確定する予定である。（事務局）
- パブリックコメントの結果は事務局で反映するのか。（委員長）
- 委員会の開催は予定していないことから、事務局で反映させ、委員長にご確認いただきたいと考えている。委員長確認後の確定版は各委員に送付予定である。（事務局）
- 各委員は、パブリックコメント直前の次回委員会資料だけではなく、今回の資料についても、気になる点があれば適宜事務局にご連絡いただきたい。（委員長）

## 4. 閉会